

厚労科研障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）
障害児支援事業所における医療的ケア児等支援人材育成プログラムの開発
児童発達支援に携わる専門職の人材育成のあり方についての
プレ調査とそれに基づくアンケート調査について

信州大学医学部新生児学・療育学講座
亀井智泉

【調査の目的】

障害児の直接支援に携わる人材にとって必要な知識とスキルについて、現在実際に障害児支援事業所で働く人が具体的にどのようなものを必要と感じているかを把握するため

【調査対象】

全国の児童発達支援にかかる事業所（放課後等デイサービス、児童発達支援事業所。両方を提供している多機能型事業所も多いため、この事業を弁別せずに調査票を送り、調査内容に提供サービスの種別を問い、その違いを抽出する。）

無作為に抽出して1000件程度に発送、回答期間を1か月程度設ける。

【調査方法】

郵送による調査票の配布、FAX、もしくは郵送による返送

【調査内容】

平成30年9月～10月に、長野県内の事業所を対象にプレ調査を行い、その結果をもとに質問を設定する。

【プレ調査の結果】

平成30年9月から10月に複数の圏域のレスパイト施設・保育園・児童発達支援センター／事業所の職員を対象にプレ調査を行った。その結果は以下の通り。

①調査人数 36名

職種 保育士 17名 支援員 1名
看護師 11名 リハビリセラピスト 6名

②結果

アンケート回答者のうち21名がこれまで主に発達障がいのある児の支援に携わり、10名が肢体不自由児、11名が医

療的ケア児の支援経験者である。

【日常の支援の中で困ること】

障害児支援の経験年数で分けた回答はグラフ①の通り。

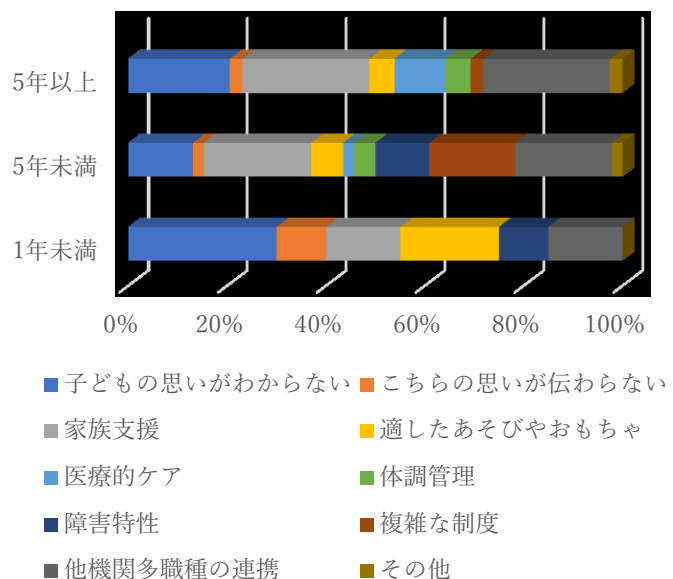
経験年数1年未満の初任者は「こどもの思いがわからない」「児に適したあそびやおもちゃがわからない」ことに悩み、経験を重ねると「家族支援」「複雑な制度」に悩む人が増える。経験が浅いうちは「障害特性」について悩む人も多い。経験を重ねると児本人の支援よりも家族支援や他機関多職種連携に課題を感じている。

この回答を職種別にみたものは次頁グラフ②の通り。

「医療職」は看護師とリハビリテーションセラピスト、保育士と生活支援員を「非医療職」と分類した。

非医療職では「家族支援」に最も「困って」おり、次いで「こどもの思いがわからない」「他機

グラフ① 日常の支援の課題（経験年数別）



関多職種連携」に困り感がある。また、あそびやおもちゃ選び、制度の複雑さにも課題がある。

医療職では「複雑な制度」と「他機関多職種の連携」に課題を感じている。非医療職ではあまりあげられていない「障がいの特性」について一定の困り感を感じている。

【支援に携わるうえで必要と思われるスキル】

障害児支援に携わるうえで、どのようなスキルが必要だと思うか、という質問への回答を経験年数別に分けたものがグラフ③。

経験年数にかかわらず各項目についてほぼ同程度の必要性を感じている。その中でも、多様な障害特性・発達障がいの特性についての知識は経験を重ねるごとに学びの必要性が強調されていく。虐待防止のスキル・知識が初任者からは挙げられていない。経験を重ねるとおもちゃ・絵本選びのスキルの必要性を上げる人がいない。

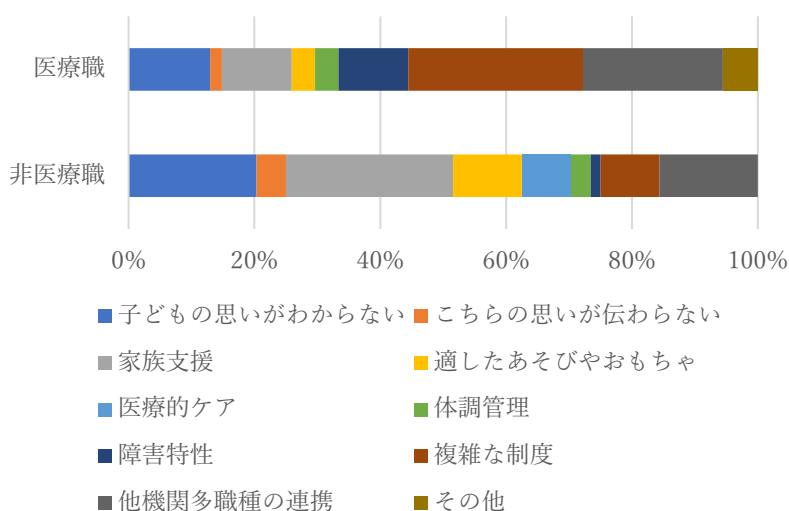
この質問の回答を職種別に分けてみる（グラフ④）。

医療職者が非医療職者よりも必要性を強く感じているのが「制度」について、「おもちゃや絵本の選び方」「虐待防止」「他機関多職種との連携」である。

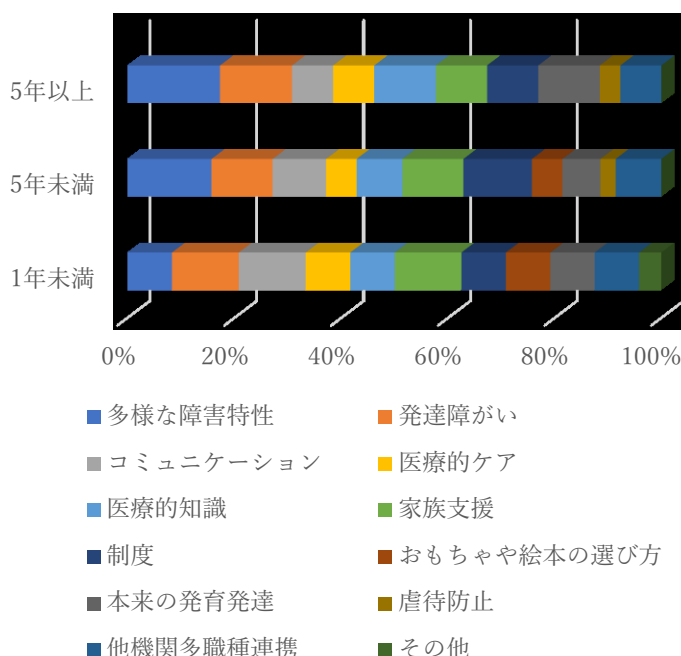
一方、非医療職者が医療職者よりも、より強く必要性を感じているスキル・知識は「多様な障がい」「発達障がい」についての「障がい特性の理解」であり、「医療的ケア」である。さらに、「家族支援」のスキルについては医療職者よりも強くその必要性を感じている。

知識やスキルを「必要と感じる」のは、実際の支援の中で必要であるから、という理由とともに、自身が「知らないから」「スキルがなくて困

グラフ②支援の中で感じる課題（職種別）



グラフ③支援に必要と思われるスキル（経験年数別）



るから」学びたいという思いの表れでもあるのではないかな。

障がい児本人への直接の支援に際しては障害特性への理解を深めることが欠かせないが、児の情報を得るためには家族からの信頼を得ることが必須である。そのうえでも、家族支援の難しさと家族支援のスキルの必要性を強く感じているというのも現状ではないだろうか。

自由記述の欄には、本人の成育歴や疾患・障がいの既往歴、発達の様子など、「情報を保護者から得ることが難しい」、とか「医療機関からの情

報では足りない」という記述がみられた。

児の発達を遊びや生活支援を通して支援するうえで必要なのは、児についての個別の情報と、障害や疾患についての知識・理解、そしてこども本来の発達のみちすじである。

これらのうち、障害や疾患、こどもの発達についての知識は研修を通して得ることができるが、児についての個別の情報は保護者やほかの支援者から得るほかない。保護者の恣意によらない情報を得るためには多職種との連携が欠かせないが、その連携方法や情報共有の手段について困っているという現状が垣間見える。

上記の調査結果から

全国規模で行う児童発達支援／放課後等デイサービスを対象とした人材育成プログラムに取り入れるべきスキル・知識のニーズ調査内容にいて、以下の通り計画する。

【調査項目】

プレ調査の結果から、

○日常の支援の中での困り感

○障がい児の発達支援において必要なスキル・知識は何か

についてはプレ調査とほぼ同じ形で問い、さらに加えて

○児の障害特性、疾患や発達の様子を理解するためにはどのような情報が必要な。

○上記の情報を主にだれから得ているか（保護者・保健師・主治医・訪問看護・訪問リハビリ・他施設の支援者など）の現状と、児の情報を得るために誰と連携したいかを問いたい。

○地域で広く多様な施設や職種との連携をつくることへの意識、地域づくりへの意識

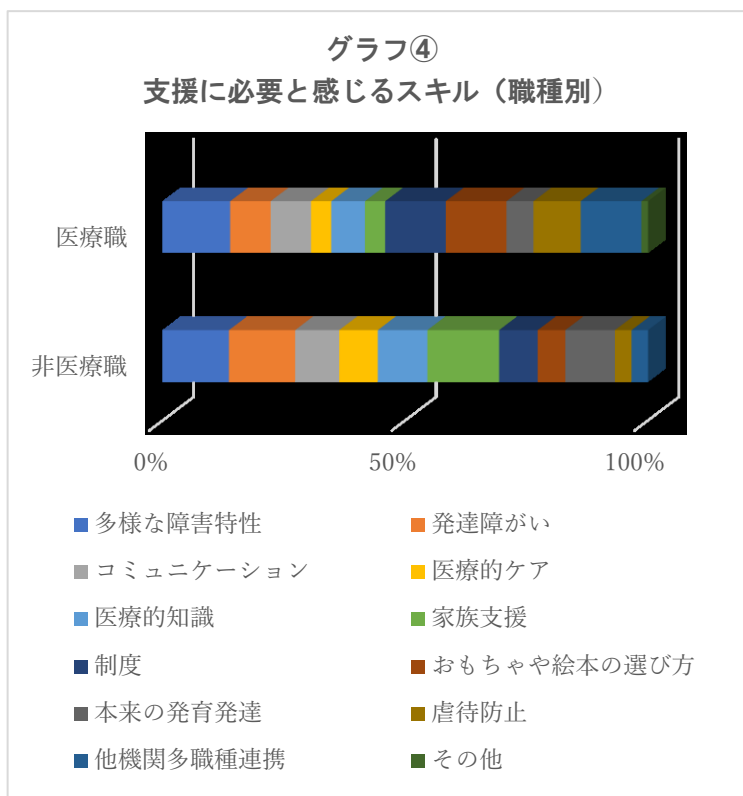
さらに、上記の質問の回答を分析するために、

○回答者の施設で提供しているサービスの種類、

○利用している児の障がいの主な種別、利用定員、

○回答者の職種、

を問う。調査票は次ページの別紙の通り。



厚労科研障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）

障害児支援事業所における医療的ケア児等支援人材育成プログラムの開発
児童発達支援に携わる専門職の人材育成についての調査 のお願い

信州大学医学部新生児学・療育学講座 特任助教 亀井智泉
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
信州大学 信州地域技術メディカル展開センター 305
電話 0263-38-7156
メール chisen_k@shinshu-u.ac.jp

発達障がいや医療的ケア児等の増加に伴い、子どもたちの発達支援を提供する児童発達支援や放課後等デイサービスが急増しています。その一方で、これらの事業所で子どもたちへの直接の支援に携わる人たちのための、全国的に統一された基本研修体系は未整備であるところから、国では、本研究を通して、はじめて障害児の直接支援に携わる人たちのための人材育成プログラムを開発することを目指しています。

については、発達支援に効果的な初任者研修プログラムのあり方を探るために、現在障害児の発達支援の事業所において、日常の支援業務の中で感じておられる課題と、発達支援のために必要なスキル・知識の調査を行いたいと思います。

この調査へのご協力は自由意志によるものであり、ご協力の有無は、あなた自身とあなたの所属しておられる機関に対して、何らの利益や不利益を生ずるものではありません。ご回答は無記名でお願いします。集計、分析したものは個人や施設が特定されない形で公表します。

ご返信は、同封の封筒か、FAX 0263-38-7156 までお願いします。

問1 あなたの施設（が提供しているサービス）は以下のうちのどれですか？（複数回答）
ア. 児童発達支援センター イ. 児童発達支援事業所 ウ. 医療型児童発達支援 エ. 放課後等デイサービス オ. 居宅訪問型児童発達支援 カ. 保育所等訪問事業 キ. その他（ ）
問2 あなたの施設では、主にどのようなお子さんが利用しておられますか？（複数回答）
ア. 発達障がい イ. 肢体不自由 ウ. 医療的ケアが必要な児 エ. 視覚障がい オ. 聴覚障がい カ. その他（ ）
問3 あなたの施設の経営主体についてお尋ねします。一つに○をつけてください
ア. 全国規模のフランチャイズ・ネットワークを持つ法人 イ. 地域のNPO法人 ウ. 株式会社・有限会社・合同会社のいずれか エ. 社会福祉協議会 オ. 公立（市町村による設置） カ. その他（ ）
問4 お答えいただいている方の職種と資格についてお尋ねします。
（職種）ア. 児童発達支援管理責任者 イ. 施設長 ウ. その他（ ） （資格）ア. 保育士 イ. 児童指導員任用資格 ウ. 社会福祉士 エ. 精神保健福祉士 オ. 保健師 カ. 医師 キ. その他（ ）

問5 支援業務の中でどのようなことに「困ったな」「大変だな」と感じますか？（複数回答）
ア. こどもの思いをわかってあげられないとき イ. こちらの言うことが伝わらないとき ウ. 家族支援 エ. その子に合った遊びやおもちゃを見つけること オ. 医療的ケア カ. こどもの体調管理 キ. 障がいの特性がわからない ク. 制度が難しい ケ. 他機関・他職種との連携 コ. その他（ ）
問6 子どもたちの支援に携わるときに、はじめに知っておきたかった、こんな知識があるとよい、と思われるのはどんなことですか？（複数回答）
ア. 多様な障がいの特性 イ. 発達障がいの特性 ウ. コミュニケーションの取り方 エ. 医療的ケア オ. アレルギーやてんかん、心臓病などの疾患や内部障がいについて カ. けがや病気の予防について キ. 家族支援 ク. 福祉や医療の制度 ケ. おもちゃや絵本の選び方・遊び コ. こども本来の発育発達 サ. 虐待防止について シ. 他機関・他職種との連携の方法 ス. その他（ ）
問7 あなたの施設の、はじめて障害児支援に携わるスタッフのための研修はどのようなものですか？
ア. 事業主体オリジナルのメソッドやプログラムについての研修を行っている イ. 特にないのでOJTで研修している ウ. 自治体や公的機関の研修を利用している エ. その他（ ）
問8 お子さんの特性の評価、理解のためにどのような情報が必要だと思われませんか？（複数回答）。
ア. 障がいの診断名 イ. 出生時の状況（在胎週数・出生体重・アプガースコア・・・など） ウ. 基礎疾患の有無とその状態 エ. ご両親の状況 オ. きょうだいの状況 カ. 他機関での支援の様子 キ. お家での様子 ク. 将来の希望 ケ. その他（ ）
問9 上記（問8）で必要とされる情報を、現在は主にどのように入手しておられますか？ あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
ア. ご家族から イ. 市区町村保健師から ウ. 主治医から エ. 訪問看護ステーションスタッフから オ. 学校から カ. 相談支援専門員から キ. 児童相談所から ク. 他機関の支援者から ケ. その他（ ）
問10 地域全体での発達支援のために、どのようなところと連携していきたいですか。（複数回答）
ア. 市区町村保健師 イ. 市区町村障がい福祉担当者 ウ. 主治医 エ. 相談支援専門員 オ. 児童相談所 カ. 他機関の支援者 キ. 訪問看護ステーション ク. 学校（特別支援学校、小中学校いずれも） ケ. その他（ ）

